

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：社会学II ILAS Seminar :Sociology II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉田 純		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	1 回生	対象学生	全学向
曜時限	金5	教室	教育院棟演習室23			使用言語	日本語
キーワード	現代社会 / 社会学 / 映画						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
[授業の概要・目的]							
《ソーシャルメディアの社会学》							
ソーシャルメディアの普及とともに、私たちのコミュニケーションや社会のあり方は大きく変わりつつあり、また様々な新たな問題が浮上している。しかし社会学は、このような現在進行形の変化や問題群に対して、まだ十分に解像度の高い学術的知見や解答を提示しているとは言いがたい。							
この授業では、ソーシャルメディアとそれによるコミュニケーションについて、社会学・メディア論の視点から論じた最新の教科書を読み、それに基づいて質疑応答・討論を重ねることを通じて、そうした状況に一石を投じ、学生諸君とともに、ソーシャルメディアに関わる様々な「問い」に対し、社会学がどのようにアプローチすることができるのかを模索したい。							
その作業は、「常識的な見方」を超えて表面的な現実の背後にある社会構造や社会関係を解明する学問としての社会学の思考方法を、ソーシャルメディアというきわめて現代的な現象へのアプローチを通じて、学んでいく作業でもある。							
[到達目標]							
ソーシャルメディアに関わる多様な問題について社会学的に考察するための視点・方法を学び、その成果を最終的にはレポート(小論文)として集成する。							
[授業計画と内容]							
授業初回はオリエンテーションを、第2回は教員による模擬報告等をおこなう。 第3～12回は、下記の順に教科書の各章について、1回につき2名1組の担当者(要約報告者1名+コメンテーター1名)が報告し、ついで全員で質疑応答・討論をおこなう(分担は第1,2回の間に、履修者の希望に基づいて調整する)。							
1. オリエンテーション(序章 ソーシャルメディアのコミュニケーションと社会) 2. 教員の模擬報告(補章 ソーシャルメディアの教育活用：コロナ禍のなかで)							
【第1部 ソーシャルメディアのプラットフォーム】							
3. 第1章 ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散 4. 第2章 動画視聴は自由な意志でなされているのか?：動画プラットフォームにおける能動的なアテンション獲得に向けて 5. 第3章 小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション 6. 第4章 ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」							
【第2部 ソーシャルメディアと文化】							
				ILASセミナー：社会学II(2)へ続く↓↓↓			

ILASセミナー：社会学II(2)

7. 第5章 インターネットは音楽から何を奪ったか？
8. 第6章 ソーシャルゲームというメディア：コミュニケーションと虚構世界
9. 第7章 アニメ・マンガのソーシャルな体験
10. 第8章 メディア・アート：テクノロジーが社会に及ぼす影響をあらかじめ体験するためのエクササイズ
11. 第9章 YouTubeにおけるリアクターとエモ消費：BABYMETALを中心に

【第3部 ソーシャルメディアと政治・経済】

12. 第10章 プラットフォーム経済
13. 第11章 ネット炎上の政治学
14. 第12章 ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの「波」
15. フィードバック (PandA上で実施)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

素点(100点満点)で評価する。配点は下記のとおり。

- (1)担当した報告の内容およびゼミへの参加状況を中心とする平常点(50点満点)
(2)学期末の小論文(レポート、50点満点)

【教科書】

松井広志・岡本健(編著)『ソーシャルメディア・スタディーズ』(北樹出版) ISBN:4779306612

【参考書等】

(参考書)

教科書に記載の参考文献を参照

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・各回の担当者(要約報告者、コメンテーター)は、必要に応じて、関連するソーシャルメディアの画像・動画等をスムーズに提示・再生できるように準備しておくこと(教室の液晶プロジェクターを利用)。
- ・全員が、毎週、次回の範囲を精読し予習しておくこと。
- ・授業終了後、当日の担当者の報告や質疑応答を踏まえ、期末レポート作成に向けての準備を進めること。

【その他(オフィスアワー等)】

- ・PandAサイトを、授業時間外の質疑応答・課題提出・フィードバック等に活用する。
- ・総合人間学部の学生は、別途選抜を行いますので、総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ第1回目の授業に出席してください。